

東京都市計画道路 放射第25号線  
(新宿区新宿七丁目  
～原町三丁目)

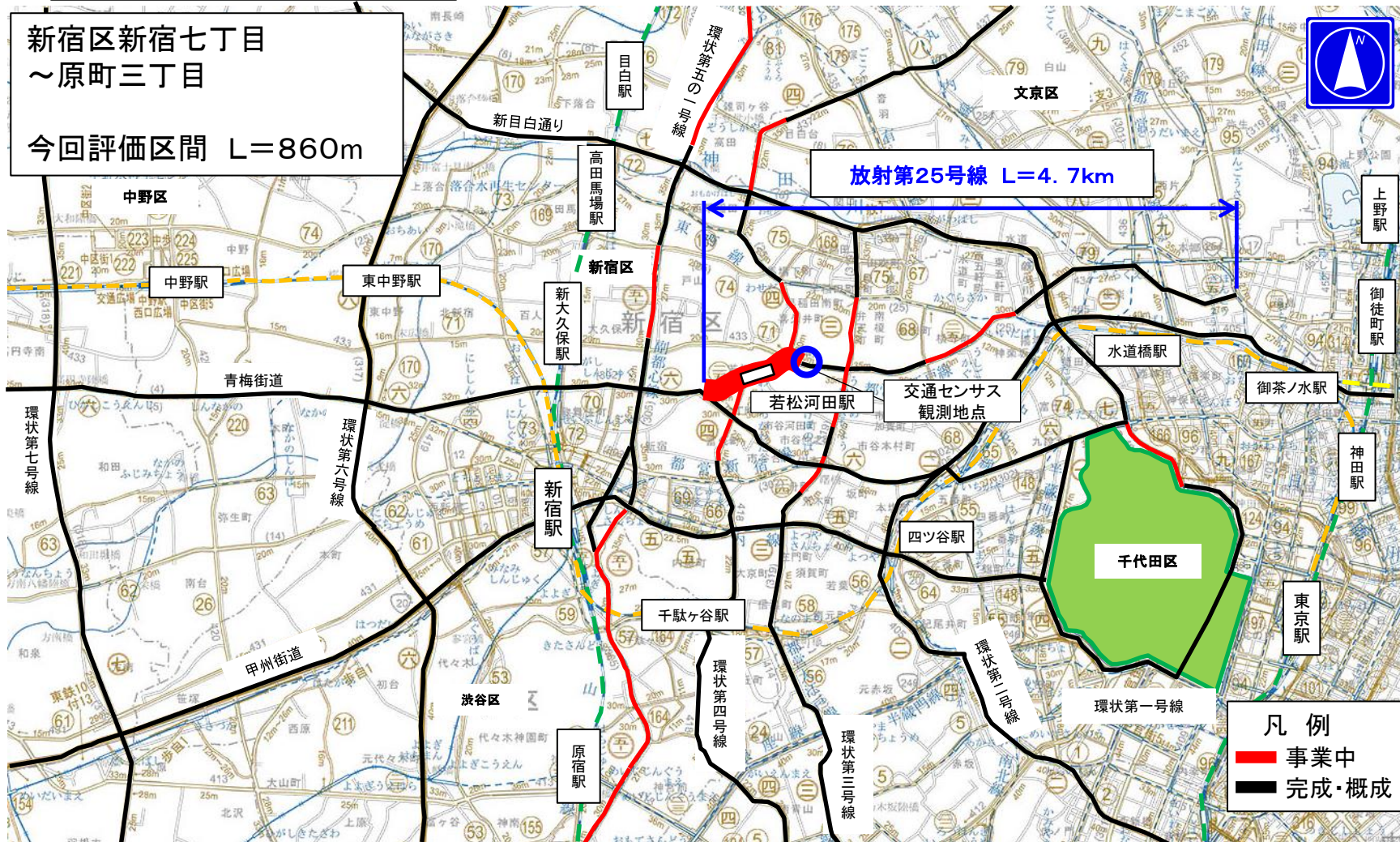
令和元年8月28日(水)  
建設局道路建設部

# 目次

1.	事業概要	.....	1
2.	社会経済情勢等の変化	.....	7
3.	事業の投資効果	.....	9
4.	事業の進捗状況	.....	16
5.	事業の進捗の見込み	.....	18
6.	コスト縮減等	.....	19
7.	対応方針(原案)	.....	20

# 1. 事業概要

## 位置図



# 1. 事業概要

## 事業期間

平成22年度～令和3年度

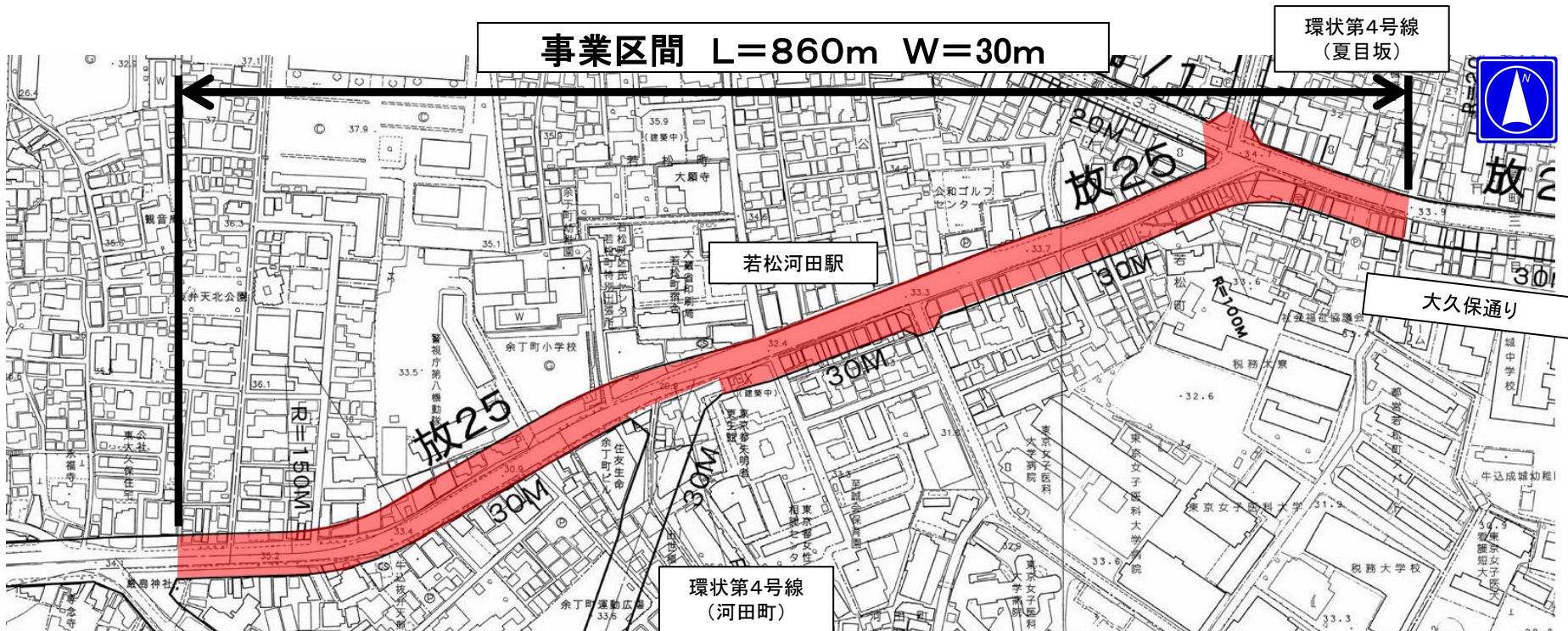
## 事業の概要

- ・放射第25号線は、新宿区新宿七丁目から文京区本郷二丁目に至る、区部中心部を東西に結ぶ延長約4.7kmの都市計画道路である。
- ・当該区間は新宿区新宿七丁目から原町三丁目までの延長860mの区間である。
- ・本事業により、周辺地域の道路交通の円滑化が図られる。また歩道拡幅や電線類の地中化及び街路樹の植栽を行うことで、快適で安全な歩行者空間が形成され、都市景観が向上する。

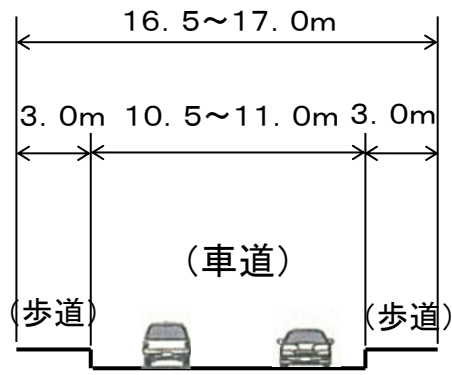
# 1. 事業概要

## 事業の概要

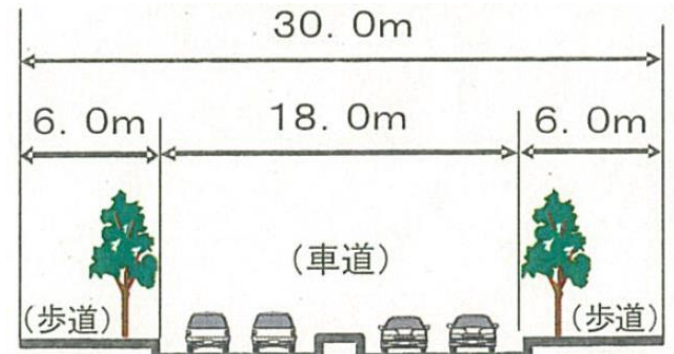
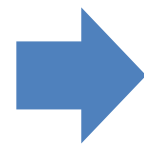
- 放射第25号線は、区部中心部を東西に結ぶ重要な幹線道路である。このうち本事業区間は、新宿区新宿七丁目から原町三丁目までの延長860mの区間である。



# 1. 事業概要



現況

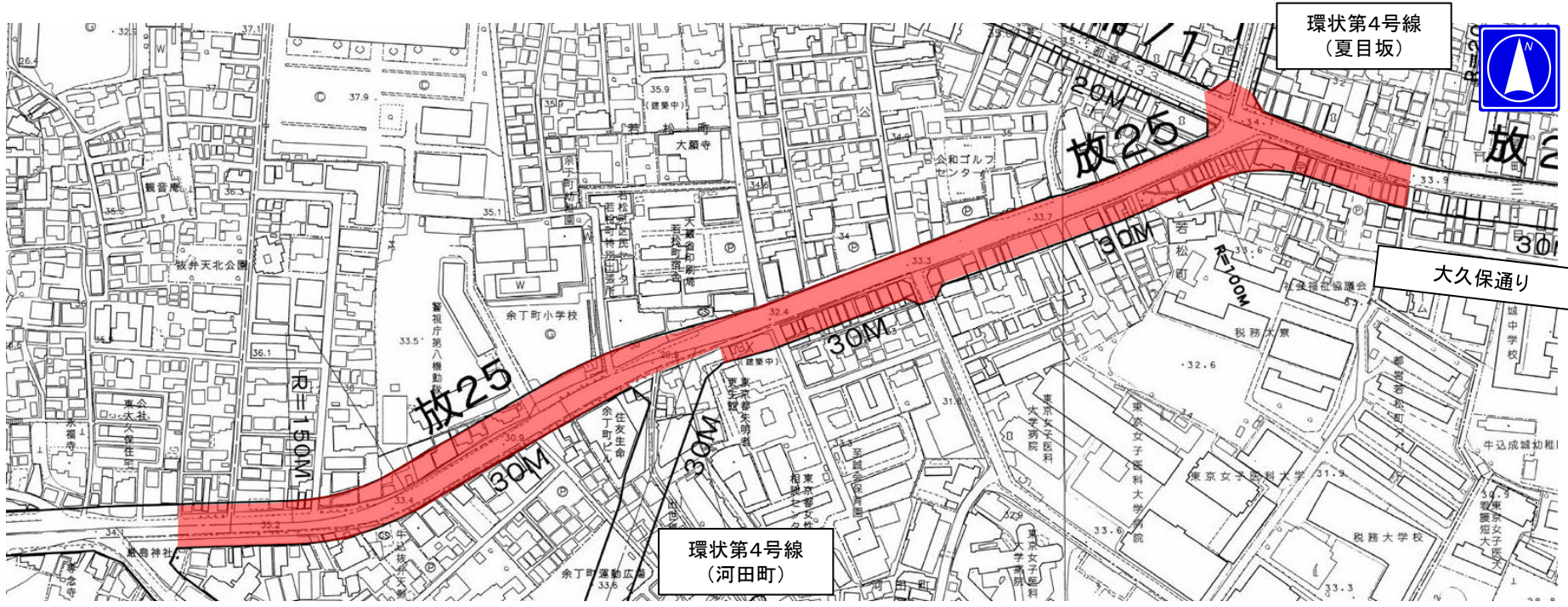


電線類

標準断面図



電線類





# 1. 事業概要

## 経緯

年度	計画等
昭和21年3月26日	都市計画決定
平成22年10月18日	事業認可取得
令和4年3月31日	事業認可期間



## 2. 社会経済情勢等の変化

### 社会経済情勢の変化

本路線周辺の平成27年度の現在交通量は、平成22年度と比較して、横ばいとなっている。

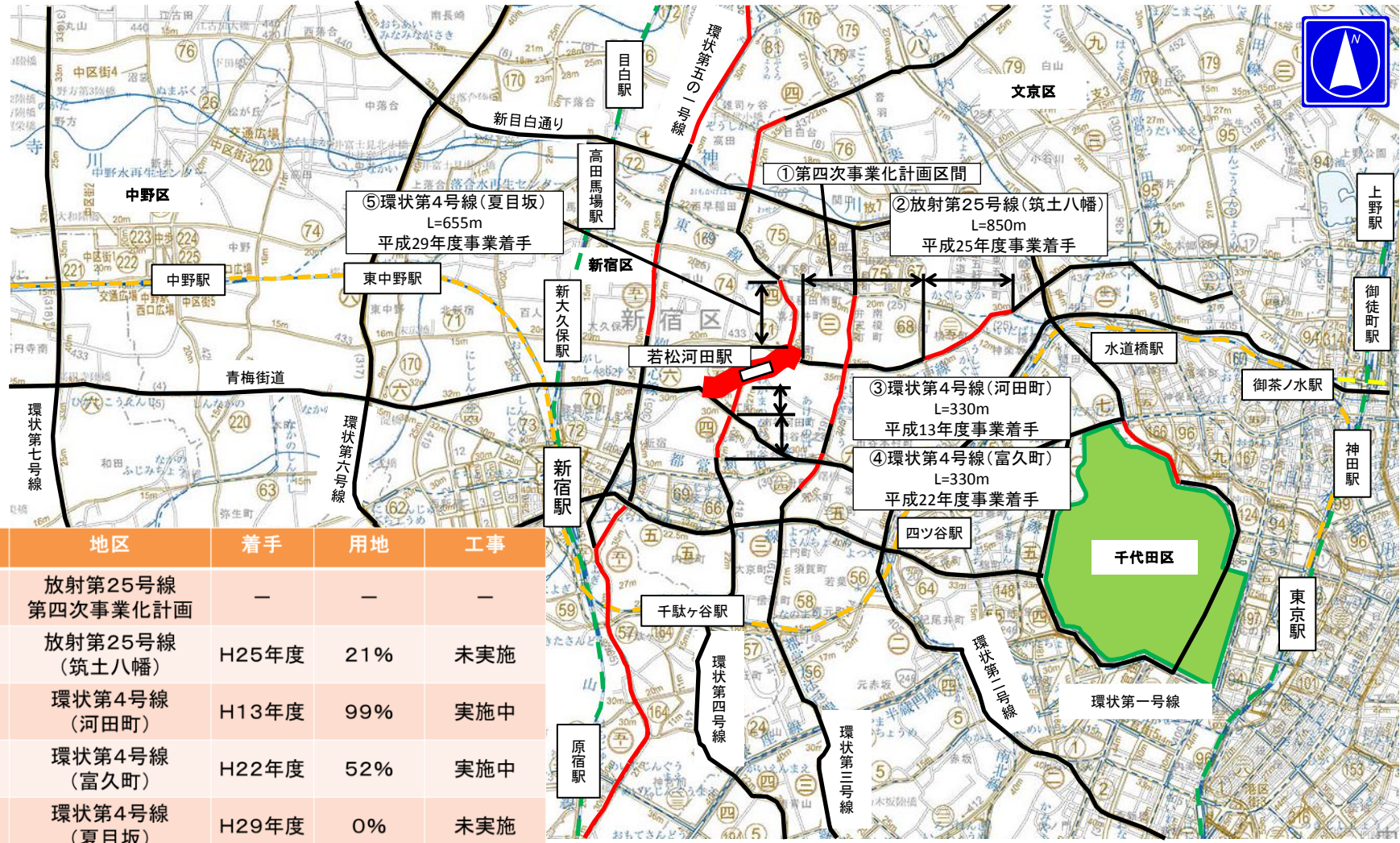
現況自動車交通量【都道433号】(道路交通センサスによる)

平成22年度: 9, 496台/12h

平成27年度: 9, 427台/12h

# 2. 社会経済情勢等の変化

## 関連する他事業等の進捗状況の変化



# 3. 事業の投資効果

## 定量的効果

### 【便益(B)の算定】

現在価値化総便益額	573.7億円
走行時間短縮便益	502.1億円
走行経費減少便益	61.3億円
交通事故減少便益	10.4億円

### 【費用(C)算定】

現在価値化総費用額	216.7億円
工事費	60.3億円
用地費	149.9億円
維持管理費	6.5億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

### 【費用便益比(B/C)の算定】

$$B/C = 2.6$$

# 3. 事業の投資効果

## 定性的効果

### <交通>

- 交通渋滞の解消
- 物資流動円滑化への寄与
- バスの定時性
- 迂回交通の減少

### <景観>

- 都市景観の向上

### <防災>

- 緊急車両の走行
- 延焼遮断
- 災害時の避難路の確保

### <くらし>

- 公共施設へのアクセス向上

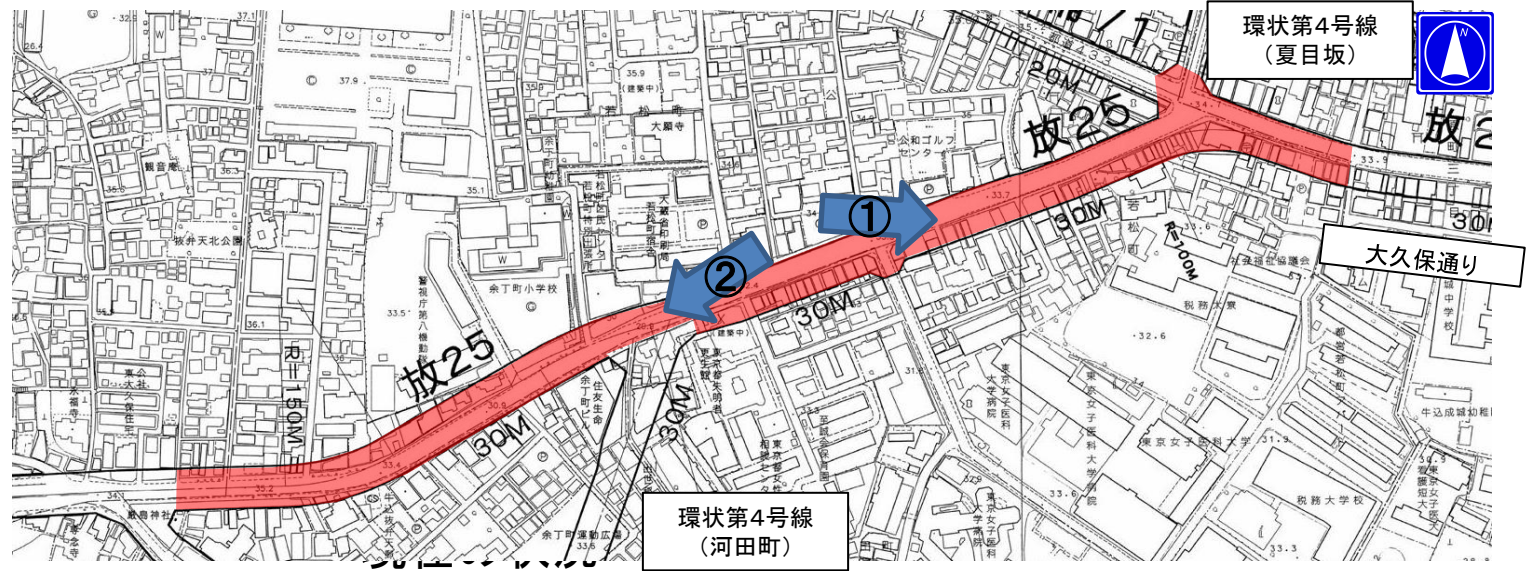
### <安全>

- 交通事故の減少
- バリアフリー化
- 自転車や歩行者のための空間確保

# 3. 事業の投資効果

## 定性的効果

＜交通＞・交通渋滞の解消  
4車線化することで現道の交通渋滞緩和が見込まれる。



# 3. 事業の投資効果

## 定性的効果

<景観>・都市景観の向上  
電線類地中化等により都市景観の向上が見込まれる。



放射第25号線 現在の状況

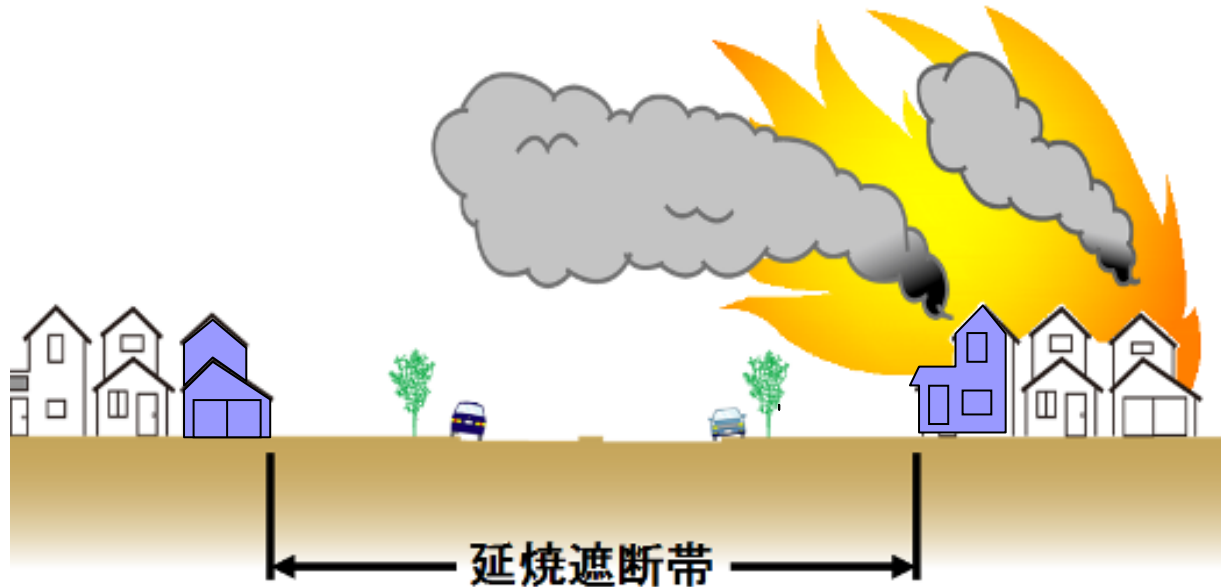


電線地中化、植樹帯設置のイメージ  
放射第6号線(余丁町):幅員25m、歩道幅員4.5m

# 3. 事業の投資効果

## 定性的効果

＜防災＞・延焼遮断  
本路線は、一般延焼遮断帯に位置付けられている。



※延焼遮断帯は、防災上の重要度から  
「骨格防災軸」「主要延焼遮断帯」「一般延焼遮断帯」の3区分としている。

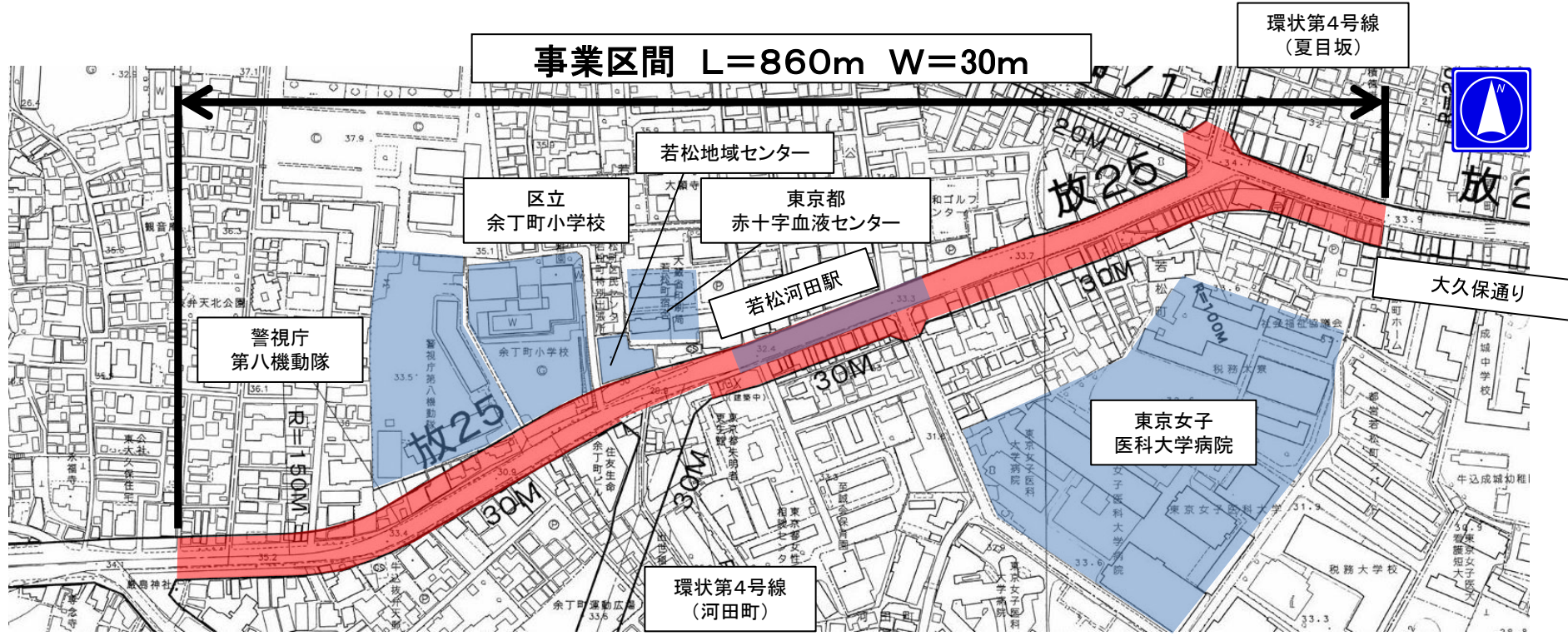
## ・災害時の避難路の確保

余丁町小学校が避難所及び医療救護所に位置付けられている。

# 3. 事業の投資効果

## 定性的効果

<くらし>・公共施設へのアクセス向上  
現道拡幅により、東京女子医科大学病院、東京都赤十字血液センター、若松河田駅などへのアクセス向上が見込まれる。

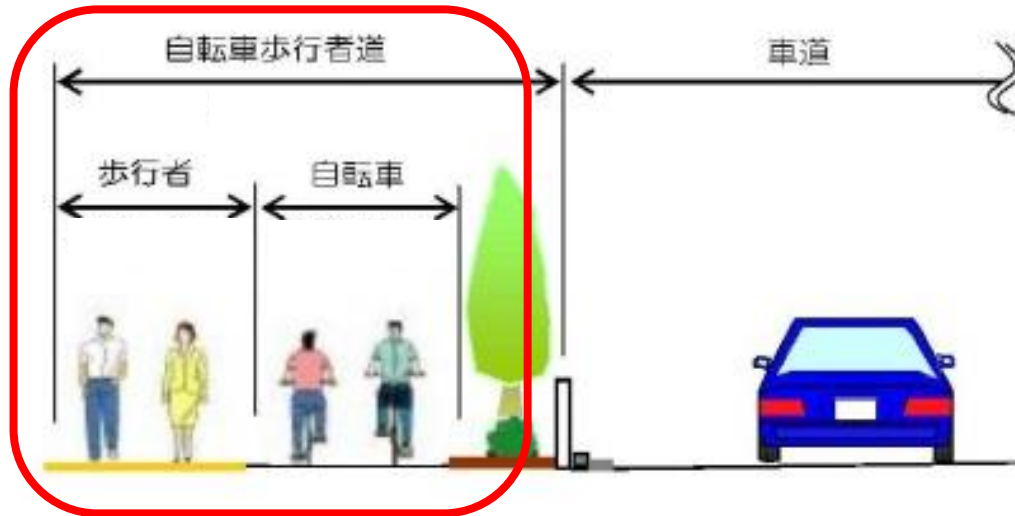




# 3. 事業の投資効果

## 定性的効果

＜安全＞・自転車や歩行者のための空間確保  
本線は歩道における歩行者、自転車の視覚的分離を  
予定しており、地域の安全性向上が見込まれる。



## 4. 事業の進捗状況

(H30年度末時点)

### 事業費の執行状況

	用地費	工事費	合計
全体事業費	18,634百万円	1,020百万円	19,654百万円
執行済額	14,628百万円	73百万円	14,701百万円
執行率	78.5%	7.1%	74.7%

### 用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
10,138m <sup>2</sup>	7,241m <sup>2</sup>	71.4%

## 4. 事業の進捗状況

### 一定期間を要した背景等

- ・一部権利者において移転先選定が難航していること及び権利者多数の区分所有マンションが多いことから用地折衝に時間を要している。

### 事業の進捗状況・残事業の内容

- ・進捗率            用地は約71%取得している。
- ・残事業           未取得用地の早期更地化を目指し、折衝を進めている。

# 5. 事業の進捗の見込み

## 今後の事業の進捗見込み

- ・引き続き、用地取得を進める。
- ・順次、工事に着手していく。



用地取得の状況

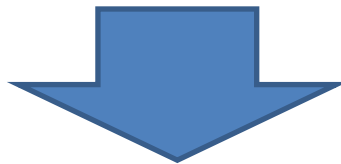
## 6. コスト縮減等

### 事業手法、コスト縮減取り組み

- ・一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法の採用等による新たなコスト縮減の可能性は極めて少ない。
- ・平面の街路築造工事であり、事業手法、施設規模等を見直す可能性はない。
- ・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用などにより、コスト縮減に努めていく。

## 7. 対応方針(原案)

- 本路線は、区部中心部を東西に結ぶ重要な幹線道路である。
- 本区間の整備により、交通渋滞の緩和、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上等、様々な面で十分な整備効果が期待できる。
- 中止の場合は、上記の整備効果を発揮できないだけでなく、これまでの投資に見合った効果も得られなくなる。



継 続